

【現行（現計画＋構想の取組の現状）】

- 1 目標  
 生命つながる「持続する環境の島」をつくる  
 (1) エネルギーが持続する地域をつくる  
 (2) 農と暮らしが持続する地域をつくる

2 評価指標及び数値目標

評価指標	当初値 (H22年度)	現状値 (H27年度)	目標値 (H28年度)
(1) エネルギーの持続			
エネルギー（電力）自給率	8%	27.7%	21%
二酸化炭素排出量	H24年比2.5%削減 (H25年)	H24年比8.4%削減	H24年比8.4%削減
再生可能エネルギー創出量	83,851MWh/年	237,766MWh/年	180,472MWh/年
(2) 農と暮らしの持続			
新規就農者数	36人/年	56人/年	65人/年
再生利用が可能な荒廃農地面積	521ha	371ha	509ha
一戸当たり農業生産額	186万円 (H21年)	228万円 (H26年)	195万円
持続人口（定住人口＋交流人口）（うち定住人口）	17万4千人 (14万4千人)	17万人 (H26年) (13万7千人)	16万7千人 (13万4千人)

3 政策課題及び事業

- 【政策課題】(1) エネルギーが持続する地域づくり  
 (2) 農と暮らしの持続する地域づくり

【政策課題の解決策及び事業】(○現計画の事業、●現計画に記載していないが現在実施中の事業)

政策課題の解決策	主な事業（実施主体）	国の支援措置
(1) エネルギーの持続		
①再生可能エネルギーの創出拡大	<p>【太陽光】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未利用地を活用した太陽光発電所の整備 (民間企業)</li> <li>○事業所・家庭での太陽光発電の導入促進 (市)</li> </ul> <p>【バイオマス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バイオマス利用の促進 (廃食油、下水汚泥等の利用) (民間企業)</li> <li>○地域資源の価値を高める複合的なバイオマス利用 (電気・熱・燃料) のための計画策定 (洲本市)</li> <li>○あわじ菜の花エコプロジェクトの推進 (県、市等)</li> <li>○放置竹林の拡大防止とその資源活用</li> <li>●「あわじ竹資源エネルギー化5カ年計画」の実施 (県、市)</li> </ul>	規制緩和 利子補給
(特区計画での記載) 再生可能エネルギーのベストミックスによるエネルギーの創出拡大と、無駄の排除を通じたエネルギー消費の最適化の両面の取組によりエネルギー自給率を高め、外的な環境変化や災害・事故等のリスクに強い、エネルギー自立の島をつくる。 島内至るところで太陽光やバイオマスによる発電が行われ、未利用地だった場所では大規模な太陽光発電所や風力発電所が運営されるなど、地域資源を生かした発電事業が各地で展開される地域をつくる。 再生可能エネルギーを生かした発電事業に島民が出資する仕組みを整え、そこから生み出される富の一部を、地域づくり活動や社会基盤整備の原資として地域に還元し、地域の活性化と魅力向上につなげる。 エネルギー創出の取組から地域に密着したしごとを生み出す。		

【改訂計画案】

- 1 目標 **現計画の目標を維持**  
 生命つながる「持続する環境の島」をつくる  
 (1) エネルギーが持続する地域をつくる  
 (2) 農と暮らしが持続する地域をつくる

2 評価指標及び数値目標 **現計画の評価指標について H33 目標値を設定、新たな項目を設定**

評価指標	目標値 (H33年度)	
(1) エネルギーの持続		(構想目標…2050年)
エネルギー（電力）自給率	34.8%	(構想目標に沿って設定)
二酸化炭素排出量	H24年比12.1%削減	(構想目標に沿って設定)
再生可能エネルギー創出量	278,446MWh/年	(構想目標に沿って設定)
竹燃料の消費量	500t/年	(新規・あわじ竹資源5カ年計画に準拠)
(2) 農と暮らしの持続		
新規就農者数	80人/年	(構想目標に沿って設定)
再生利用が可能な荒廃農地面積	H26年比19ha削減	(構想目標に沿って設定)
一戸当たり農業生産額	233万円	(構想目標に沿って設定)
持続人口（定住人口＋交流人口）（うち定住人口）	17万1千人 (13万3千人)	(兵庫県地域創生戦略の目標人口を参考に設定)

3 政策課題及び事業 **現計画の政策課題を維持し、その解決策及び事業の充実を図る**

- 【政策課題】(1) エネルギーが持続する地域づくり  
 (2) 農と暮らしの持続する地域づくり

【政策課題の解決策及び事業】(○現計画の事業のうち継続する事業、●現在実施中の事業で改訂計画に盛り込む事業、★新規で改訂計画に盛り込む事業)

政策課題の解決策	主な事業（実施主体）	国の支援措置
(1) エネルギーの持続		
①再生可能エネルギーの創出拡大	<p>【太陽光】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○未利用地を活用した太陽光発電所の整備 (民間企業)</li> <li>○家庭での太陽光発電の導入促進 (市)</li> </ul> <p>【バイオマス】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バイオマス利用の促進 (廃食油、下水汚泥等の利用) (民間企業)</li> <li>★学校跡地を活用したバイオマス燃料製造等の拠点づくり</li> <li>廃食油からBDFを製造する施設の設定</li> <li>○地域資源の価値を高める複合的なバイオマス利用 (電気・熱・燃料) のための計画策定 (洲本市)</li> <li>○あわじ菜の花エコプロジェクトの推進 (県、市等)</li> </ul> <p>【竹資源の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「あわじ竹資源エネルギー化5カ年計画」の実施 (県、市等)</li> <li>●大型竹チップボイラーの導入拡大 (温浴施設等)</li> <li>●中小規模のボイラー等の普及促進 (花卉ハウス、家庭等)</li> <li>●竹チップ製造の拡大・品質向上</li> <li>★竹伐採の団体育成、竹林整備の推進</li> <li>竹伐採のボランティア団体の</li> </ul>	規制緩和 利子補給 利子補給等 (環境省補助等)
(現計画に追加) ・竹資源のエネルギー源としての活用		

【現行（現計画＋構想の取組の現状）】

	<p>【地域資源を生かした発電事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○太陽熱発電とその排熱利用型バイナリー発電の高効率ハイブリッド実証（終了）（民間企業）</li> <li>○日本有数の潮流を活用した潮流発電の検討（民間企業）</li> <li>○洋上風力発電の事業化検討（洲本市、民間企業）</li> </ul>	<p>環境省補助事業、規制緩和</p> <p>環境省委託事業</p> <p>環境省補助・委託事業</p>
	<p>【島民が出資する仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民参加型太陽光発電事業（県、団体）</li> </ul>	
<p>②エネルギー消費の最適化</p> <p>(再掲)</p> <p>再生可能エネルギーのベストミックスによるエネルギーの創出拡大と、無駄の排除を通じたエネルギー消費の最適化の両面の取組によりエネルギー自給率を高め、外的な環境変化や災害・事故等のリスクに強い、エネルギー自立の島をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○離島・漁村における直流技術による自立分散エネルギーシステム技術の実証研究（大学・民間企業等）</li> <li>○分散型エネルギーインフラを用いた淡路市の活性化（淡路市）</li> <li>○スマートコミュニティづくりの検討調査（洲本市）</li> </ul>	<p>環境省委託事業</p> <p>総務省委託事業</p> <p>総務省委託事業</p>

【改訂計画案】

	<p>育成・助成、竹林の計画的な整備等</p> <p>★竹資源供給計画の作成と需要先の熟利用計画の具体化（淡路市）</p> <p>竹資源の賦存量の把握、伐採手法・需要先等の検討</p>	<p>環境省補助（H28補助金交付決定済）</p>
	<p>★竹の伐採・搬出・運搬システムの検討（生産体制の拡大の検討）（県、市等）</p> <p>竹の伐採・運搬機材、ストックヤード、運搬体制の仕組み等の検討</p>	<p>利子補給（環境省補助等）</p>
	<p>★竹チップボイラーを活用した発電事業の検討（県等）</p> <p>島内への竹チップボイラー発電所の誘致、徳島での検討中の発電所への竹の供給等の検討</p>	<p>規制緩和</p>
	<p>【地域資源を生かした発電事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本有数の潮流を活用した潮流発電の検討（民間企業）</li> <li>○洋上風力発電の事業化検討（洲本市、民間企業）</li> </ul>	<p>（環境省補助等）</p> <p>環境省補助・委託事業（税制措置）</p>
	<p>【島民が出資する仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住民参加型太陽光発電事業（県、団体）</li> </ul>	
<p>②エネルギー消費の最適化と地産地消</p> <p>(現計画に追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水素技術や蓄電池を用いた電力需給の制御技術の導入</li> <li>・再生可能エネルギーの地産地消の仕組みづくり</li> <li>・竹資源を活用した分散型エネルギーインフラの構築</li> <li>・農畜水産業への利用などエネルギーの地産地消の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○離島・漁村における自立分散エネルギーシステム技術の検討（大学・民間企業等）</li> <li>★地産地消型水素エネルギー活用 の検討調査（県）</li> <li>県水素社会戦略研究会における水素活用の検討（太陽光発電等の再生可能エネルギーと組み合わせた地産地消の検討等）</li> <li>★蓄電池等のエネルギー設備を活用した地産地消の事業化可能性調査、実証実験（民間企業）</li> <li>既存の蓄エネ設備等を活用したエネルギーの地産地消の仕組み、防災設備としての活用、大型蓄電設備導入、廃熱利用等の検討</li> <li>★地域エネルギー会社等の設立と他の地域との遠隔連携による電力自給の事業化可能性調査（淡路市）</li> <li>地域エネルギー会社の設立検討や福岡県みやま市等と連携した需給調整による事業リスク軽減の可能性調査</li> </ul>	<p>（環境省補助等）</p> <p>（環境省補助等）</p> <p>経産省補助（H28補助金交付決定済）</p>

【現行（現計画+構想の取組の現状）】

③省エネルギー地域の実現	○「うちエコ診断」の展開 (県、団体、民間企業等) ○「EVアイランドあわじ」の推進 (EV導入補助、EV用充電器の整備等) (県、団体)	規制緩和
地球と地域の持続につながる省エネ・節電行動を、満足度を高めるライフスタイルとして定着させ、家庭・事業所のエネルギー消費量を大きく減少させる。エネルギー消費の少ない乗り物を普及させる。		
(2) 農と暮らしの持続		
①農と食の人材育成拠点の形成	○「チャレンジファーム淡路」、「ここから村」による人材育成 (民間企業) ○「のじまスコーラ」の運営 (民間企業) ●吉備国際大学との連携 (大学、県、南あわじ市) ●「食と農による地域づくりのセミナー」の開催 (県)	
民間事業者と地域の協働で、農漁業の担い手や食をテーマにしたサービス産業の専門人材を育成する拠点を形成する。島内、周辺地域のみならず広く全国に農と食の専門人材を即戦力として輩出する島となる。		
②農水産業の経営基盤の強化	○生産振興対策（「がんばる淡路島農業人支援事業」、淡路島の野菜産地向上プロジェクトなど野菜生産振興、淡路島いちじく作付面積倍増作戦、淡路和牛、酪農等の生産振興、水産の島の再生等） (県、地域団体) ○耕作放棄地の徹底活用（県、市等）	
経営規模の拡大等で農漁業を強化するとともに、人材育成拠点で鍛えられた若者の島内への定着を促すことにより、地域の強みである農漁業が次世代に確実に継承される島をつくる。		

【改訂計画案】

	○竹チップボイラーを活用したサステイナブルパーク構想の推進 (淡路市) ★農畜水産業への再生可能エネルギー利用の促進 (民間等) 竹チップボイラー、BDFのほか、太陽光・風力等の活用	環境省補助
③省エネルギー地域の実現	○「うちエコ診断」の展開 (県、団体、民間企業等) ○「EVアイランドあわじ」の推進 (EV用充電器の整備・活用の推進、充電設備を活用した電気自動車等の普及等) (県、団体)	規制緩和
(2) 農と暮らしの持続		
①農と食の人材育成拠点の形成	○「チャレンジファーム淡路」による人材育成 (民間企業) ○「のじまスコーラ」の運営 (民間企業) ●吉備国際大学との連携 (大学、県、南あわじ市) ●「食と農の体験ツアー」の開催 (県) 大学等との連携や、たまねぎ小屋やため池等の景観も地域資源として活用し交流を促進 ★農と食に関する専門人材を育成する高等教育機関の設立検討 (民間企業、県) 農と食の専門職大学等の設置検討	
(現計画に追加) ・農と食に関する高等教育機関による人材育成 ・大学との連携等による生産者と消費者の食と農に関する学習・交流機会の創出		
②農畜水産業の経営基盤の強化とブランド化	○生産振興対策（「がんばる淡路島農業人支援事業」、淡路島の野菜産地向上プロジェクトなど野菜生産振興、淡路島いちじく作付面積倍増作戦、淡路和牛、酪農等の生産振興、水産の島の再生等） (県、地域団体) ○耕作放棄地の徹底活用（県、市等） ○農商工連携による淡路島ブランドの育成支援（高品質化・商品化促進） (県、市、団体等) ○「あわじ島まるごと食の拠点施設」の活用推進（南あわじ市、県） ★再生可能エネルギーや新技術の農畜水産業への活用（温室栽培、漁船、養殖等での活用） (民間等) ★農用地区域内における農家レストランの設置 (民間等) ★農業委員会と市の事務分担の特例制度の活用 (市) 農地の権利移転に関する許可権限の市への移譲	規制緩和 (国家戦略特区) 規制緩和 (国家戦略特区)
現計画②~④を統合 (現計画に追加) ・規制緩和の活用等による6次産業化の促進 ・再生可能エネルギーの農畜水産業への活用		

【現行（現計画＋構想の取組の現状）】

【改訂計画案】

<p>③ ICT活用による農水産業の生産性の向上</p> <p>ICTの活用や生産過程のグリーン化による生産性の向上と、民間事業者と地域の協働による付加価値向上の取組を組み合わせ、農漁業が魅力ある産業として持続する地域をつくる。</p>	<p>○漁船の電動化・ハイブリッド化による漁業のグリーン化の実証実験（終了）（民間企業）</p> <p>○「エコ・クラインガルテン」構想の推進（中断）（民間企業）</p> <p>○「エコ植物工場」構想の推進（中断）（民間企業）</p>	
<p>④農水産業のブランド化</p> <p>確かな品質に裏付けられた農水産物を生み出す島として地域そのものをブランド化し、アジア有数の食の生産拠点として、安全・安心・美味の農水産物を国内外に供給する。</p>	<p>○「食のブランド淡路島」の推進（県、市、団体等）</p> <p>○「あわじ島まるごと食の拠点施設」の開設（南あわじ市）</p>	
<p>⑤地域協働による暮らしの持続</p> <p>エネルギー、農と食、ツーリズム等に地域が力を合わせて取り組むことを通じて、世代を超えたコミュニケーションが交わされ、都市では希薄になった人と人の温かいつながりが保たれている地域をつくり、暮らしを持続させる。</p>	<p>●重点地区や重点分野での住民団体等の先進的な取組への助成事業（県、市）</p>	
<p>⑥地域ぐるみでの子育て、高齢者の見守り</p> <p>進化したICTを生かして地域ぐるみで子育てや高齢者の見守りが行われるとともに、男女が等しく働きながら安心して子育てができ、豊かな自然環境の中でたくましい子どもが育つ地域をつくる。</p>	<p>○健康長寿の島づくり（いきいき百歳体操、認知症地域支援ネットワークづくり等）（県、市、団体等）</p> <p>○ソーシャルファームの推進（NPO、南あわじ市）</p> <p>○超小型EV導入による高齢者にやさしい交通システムの実証事業（県）</p> <p>●複合型福祉拠点の整備（県社会福祉事業団）</p>	
	<p>●ICT街づくり推進事業（終了）（淡路市、民間企業）</p>	<p>総務省補助事業</p>

	<p>★農業への信用保証制度の活用（市）</p> <p>農業の6次産業化推進のための信用保証制度創設</p>	<p>規制緩和（国家戦略特区）</p>
<p>③地域協働による暮らしの持続</p>	<p>●重点地区や重点分野での住民団体等の先進的な取組への助成事業（県、市）</p>	
<p>④安心して暮らし続けられる地域の実現</p> <p>現計画⑥を改め (現計画に追加)</p> <p>・規制緩和の活用等による高齢者等の生活利便性の向上</p>	<p>○健康長寿の島づくり（いきいき百歳体操、認知症地域支援ネットワークづくり等）（県、市、団体等）</p> <p>○ソーシャルファームの推進（NPO、南あわじ市）</p> <p>●複合型福祉拠点の整備（県社会福祉事業団）</p>	
	<p>★福祉人材を育成する学校等の誘致（淡路市、民間企業）</p> <p>廃校を活用した外国人看護師向け日本語学校等の誘致</p>	
	<p>○地域の高齢者の新たな交通手段の検討（県、民間企業）</p>	
	<p>★地域における公共交通の仕組みの検討（県、市、民間企業等）</p> <p>バス交通の充実、高速バス停や観光地、交通空白地等を結ぶコミュニティバス、デマンドバスの活用検討</p>	<p>規制緩和（国交省補助要件の緩和） 規制緩和（国家戦略特区）</p>
	<p>★自動運転技術を活用した地域交通システムの実証実験（民間企業）</p> <p>自動運転システムによる過疎地でのコミュニティバス等運行の実証実験</p>	
	<p>★ドローンを活用した輸送事業可能性調査や産業化を目指した実証実験（県、市、民間企業）</p> <p>ドローンを活用した事業化可能性調査、実証実験（災害時等の離島山間部への物資輸送、農業分野（農薬散布、生育調査、鳥獣害被害調査）への活用等） ドローンを活用した新産業の創生、観光分野への活用等の検討</p>	<p>規制緩和（国家戦略特区）</p>
<p>⑤若者や都市住民が集まる交流空間づくり</p> <p>(現計画に追加)</p>	<p>●はたらくカタチ研究島後継事業支援事業（県）</p>	
<p>・日本遺産「国生みの島・淡路」を活用した交流の促進</p>	<p>●域学連携地域活力創出モデル事業（地域と大学が連携した新たな事業モデルの構築）（洲本市）</p> <p>●淡路マンガ・アニメアイランド事業（民間企業）</p>	

【現行（現計画＋構想の取組の現状）】

<p>⑦若者や都市住民が集まる交流空間づくり</p> <p>豊かな自然、エネルギー自立の取組の蓄積、農漁業の強みをトータルに生かし、国内外から豊かな時間を求める人が集まる「エコツーリズムの島」「食の島」「健康の島」をつくる。          楽農生活やスローライフを志向する若者や都市住民の移住・二地域居住を積極的に受け入れ、新しいライフスタイルを求める人が集まる交流空間をつくる。空き家や遊休施設を活用した洒落たカフェやレストランがあちこちにある、訪れて楽しい島をつくる。</p>	<p>●「淡路はたらくカタチ研究島」の実施（県、市、団体等）</p> <p>●域学連携地域活力創出モデル事業（地域と大学が連携した新たな事業モデルの構築）（洲本市）</p> <p>●淡路マンガ・アニメアイランド事業（民間企業）</p>	<p>厚労省委託事業（一部）</p>
<p>⑧先進地など国内外の地域との交流</p> <p>国内他地域、さらには北欧等の先進地やアジア等の島嶼地域など世界との幅広い交流を行い、地域に蓄積された持続社会づくりの知恵・ノウハウを国内他地域や海外島嶼地域の課題解決に生かし、互恵的な関係を築く</p>	<p>○あわじ環境未来島構想の啓発推進（環境未来島セミナーの開催、小学生用副読本の作成等）（県）</p> <p>●デンマーク・ボーンホルム島との相互交流事業（県、各市）</p>	

【改訂計画案】

	<p>★超小型EVを活用した新たな観光・交流促進事業（県、民間企業）          2人乗りEVをウェスティンホテルに設置し、新たな観光等に活用（H28.9～11に実験的に実施予定）</p>	（規制緩和）
	<p>★「松帆銅鐸」など日本遺産「国生みの島・淡路」を活用した新たな観光・交流の促進（県、各市）          松帆銅鐸などの日本遺産認定を活用した各種イベントや魅力発信事業の実施</p>	
<p>⑥環境未来島構想の啓発推進と国内外の地域との交流</p> <p>（現計画に追加）          ・地域を担う次世代への環境未来島構想の継承</p>	<p>○あわじ環境未来島構想の啓発推進（環境未来島セミナーの開催、小学生用副読本の作成等）（県）</p> <p>●環境学習等を通じたデンマーク・ボーンホルム島との学生・生徒の交流促進（県、各市）</p>	